

ぞん ご存じですか？ ヘルプ カード



ヘルプカードは「^{てだす}手助けがほしい人」と「^{ひと}手助けしたい人」をつなぐ
コミュニケーションツールです。



ヘルプカードは、^{しょうがい}障害のある人等が主に^{ひとなど}外出時に^{おち}「^{がいしゅつじ}困りごとが起こったとき、^{こま}「^{こま}困っている」ことや^{てだす}「^{しゅうい}手助けがほしい」ことを^{ひと}周囲の人に^{つた}伝え、^{しょうがい}障害^{とくせい}特性に応じた^{おう}支援^{しえん}を受けやすくするためのカードです。

- こんなケースでヘルプカードが役立ちます。
- ^{さいがいじ}災害時の^{ひなん}避難のとき
ヘルプカードを^{しゅうい}周囲の人に^{ひと}示し、^{しめ}安全に^{あんぜん}避難^{ひなん}できるよう^{はいりょ}配慮^{きょうりょく}や^{いらい}協力を^{いらい}依頼します。
 - ^{ほっさ}パニックや^{きゅう}発作、^{たいちようぶりよう}急な^{みま}体調不良に見^{みま}舞われたとき
ヘルプカードの^{きさいないよう}記載内容を^{しゅうい}周囲の人が^{かくにん}確認し、^{てきせつ}適切な^{たいおう}対応や^{はいりょ}配慮^{おこな}を行ったり、^{きんきゅうれんらくさき}緊急連絡先に^{れんらく}連絡したりします。
 - ^{みち}道に^{まよ}迷ったとき
ヘルプカードを^{しゅうい}周囲の人が^{ひと}確認し、^{かくにん}道案内や^{みちあんない}支援^{しえん}機関^{きかん}等への^{なご}つなぎ^{おこな}を行ないます。
 - ^{てだす}ちょっと^{てだす}手助けがほしいとき
ヘルプカードを^{つか}使って、^{くたいてき}具体的な^{てだす}手助け^{いらい}を依頼します。



ヘルプカードの^{はいふばしょ}配布場所

- ^{いかたちようやくば}伊方町役場 ^{ふくしかまどくち}福祉課窓口・^{ほけん}保健センター・^{かくそうごうししょ}各総合支所
- ^{しょうがいふくし}障害福祉サービス事業所 ^{じぎょうしよ}事業所

ヘルプカードの使い方

① 誰が使うの？

- ・ 障害のある人（障害者手帳の有無は問わない）が主な対象ですが、病气やけが、妊娠初期の人等、外出先や避難先で周囲の配慮や手助けが必要になる（可能性がある）人が使うこともできます。
- ・ 「困っているので助けてほしい」「ちょっとした配慮がほしい」ということがうまく伝えられない人が、ヘルプカードを使うことで支援や配慮を受けやすくなります。

② いつ、どこで、どうやって使うの？

- ・ 外出時に携帯し、災害時や緊急時に支援が必要なときやちょっと手助けが欲しいときに、周囲の人に提示して、支援を求めることができます。

③ どんなメリットがあるの？

- ・ 「外出時に何かあったらどうしよう。」という本人や家族の不安を和らげます。
- ・ 緊急連絡先や障害の特性に応じた配慮やコミュニケーションの方法等を容易に伝えることができるので、手助けしたい人が適切に支援をすることができます。
- ・ ヘルプカードの導入・普及を図ることで、障害のある人等に対する社会の理解を促進します。



障害のある人等の困りごとや不安なこと

○ 交通事故や急病のとき

- ・ 体に触れられることや、知らない人とのコミュニケーションが苦手なため、一般的な対応ではパニックを起こす、暴れるなど、救急対応が難しくなることがあります。

【発達障害（自閉症）】

- ・ 鼻や口ではなく、のど元にある気管孔で呼吸しています。このことにいち早く気づき、適切に対応してもらう必要があります。

【音声機能障害（喉頭摘出）】

○ 災害のとき

- ・ 避難生活の中で、必要不可欠な薬や医療器具・装具、配慮（食事、居住スペース、トイレ等の面で）を確保できるのか不安。

【共通】

○ 外出のとき

- ・ 道に迷ったり、方向がわからなくなったりすることがあります。

【視覚障害】

○ バスや電車に乗るとき

- ・ 席が空いていてもわからないので、ずっと立っていることがあります。

【視覚障害】

- ・ バスや電車が事故等で来ないとき、音声アナウンスでは状況がわからなくて困ります。

【聴覚障害】

○ 窓口で

- ・ 切符を買ったり、いろいろな事務手続きの際、要望等を伝えるのが難しいです。

【高次脳機能障害】

このカードの問い合わせ先

伊方町役場福祉課 電話：0894-38-0217